

令和7年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策)
事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

令和7年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金(山村活性化対策)実施要領」(平成30年3月28日付け29農振第2261号農林水産省農村振興局長通知)の第9の1の(1)の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	備 考
			R6	R7	R8		
岡山県	鏡野町	一般社団法人鏡野観光局	●	●	□	B	

(注1)「事業実施段階」の凡例： ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2)「評価」の区分： A・・優良 B・・良好 C・・低調

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 第三者評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	一般社団法人鏡野観光局	事業開始年度	目標年度	事業実施期間(令和7年度)						
2. 取組振興山村名	富村、奥津町、上齋原村	令和5年度	令和7年度	令和7年6月6日～令和7年3月31日						
3. 事業費(うち国費)	10,030,000円(10,000,000円)									
4. 第三者氏名	美作大学生活科学部食物学科 教授 納庄 康晴 氏		該当するものに○	教育機関関係者	産業界関係者	マスコミ関係者	農林水産業関係者	消費者	その他	
5. 事業評価										
総合評価										
取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		地域資源を活用した商品開発や販路開拓に積極的に取り組み、関係機関との連携体制のもと事業は概ね計画どおり実施された。新たな商品の開発や改良、販路開拓に向けた取組など一定の成果が認められる。一方で、本格的な販売展開や収益化については発展途上であり、今後さらなる商品力向上や販路拡大が求められることから、総合的にB評価とする。								
評価 (A～Cの該当に○)	(A)	(B)○	(C)重点指導対象							
① 取組状況										
目標の達成に資するための取組が行われたか。		地域資源である果実等を活用した商品開発を中心に、大学、地域事業者、行政機関等との連携体制のもと、計画に基づいた取組を実施した。キックオフ会議や協議会を開催し、地域ニーズの把握や商品開発、販路開拓に向けた検討を進めるとともに、試作品の開発及び改良を行うなど、事業計画に沿った活動が着実に実施された。								
評価 (A～Cの該当に○)	(A)○	(B)	(C)重点指導対象							
② 事業実績										
事業実施計画の目標は達成できているか。		バターサンド、ドレッシング、焼肉のタレ、グミ等の商品開発に取り組み、販路開拓に向けた商談やテストマーケティングも実施した。一方で、商品改良や販売体制の構築が継続中であり、本格的な販売展開や収益化については今後の取組が必要な段階である。事業は着実に進捗しているものの、更なる成果創出に向けた取組の強化が期待される。								
評価 (A～Cの該当に○)	(A)	(B)○	(C)重点指導対象							
③ 実施体制										
事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。		鏡野観光局を中心に、美作大学、地域事業者及び関係機関が連携した協議体を構築し、定期的な会議や意見交換を実施した。専門的知見を活用しながら商品開発や販路開拓を進める体制が整備されており、事業推進に有効に機能していた。								
評価 (A～Cの該当に○)	(A)	○(B)	(C)							
④ その他										
地域資源を活用した商品開発や観光振興に向けた取組は評価できる。特に、大学との連携による商品開発や市場ニーズを踏まえた改良の実施は、地域ブランドの確立に向けた有効な取組である。一方で、商品の継続的な販売や販路拡大、認知度向上については今後の課題も見受けられるため、事業終了後も継続的な取組を期待したい。										

※複数名の学識経験者等第三者から意見聴取している場合、第三者間で調整した意見結果を記載する。

別紙2

(任意評価様式第2号)

学識経験者等第三者について

〇〇市町村、又は、〇〇協議会

1. 第三者の氏名、住所 ① 氏名： 納庄 康晴 ② 住所： 岡山県津山市	3. 第三者の経歴 1983年3月広島大学工学部醗酵工学課程 卒業 1985年3月広島大学大学院工学研究科工業生化学専攻 修了(工学修士) 1985年4月鐘淵化学工業株式会社(現株式会社力ネカ)入社 1990年11月広島大学 工学博士 2018年4月～美作大学生生活科学部食物学科 教授
2. 第三者に選定した理由 本事業では、地域資源を活用した商品開発や地域産品の高付加価値化を推進していることから、食品学及び食品開発分野において専門的知見を有する美作大学生生活科学部食物学科教授の納庄康晴氏に第三者評価を依頼した。 納庄氏は工学博士として食品のおいしさや機能性、食品加工及び商品開発に関する豊富な研究実績を有するとともに、民間企業における商品開発経験も有している。また、大学において食品学分野の教育・研究に従事しており、食品開発や地域資源の活用について専門的かつ客観的な視点から評価を行うことができることから、本事業の第三者として選定した。	

別紙2

(任意評価様式第3号)

令和7年度	事業開始 2年目	岡山県苫田郡鏡野町	一般社団法人鏡野観光局
-------	-------------	-----------	-------------

農山漁村振興交付金（山村活性化対策）

取組年度	商品開発数	商品改良数	販売商品数	新規雇用者数
令和7年度	4		1	

※ 当該年度に開発等した数字を上段に、当該事業で開発等した総数を下段に括弧書きで記載して下さい。

○事業の実施状況

「鏡野ウェルネス」をコンセプトとし、鏡野町の地域資源である「白桃・ぶどう・梨」や「すうめ（すももの原種）」などを活用した多角的な事業を展開しました。

美作大学と連携して果実の成分分析を実施し、すももの原種である「すうめ」等にポリフェノールが一般比較よりも豊富に含まれることが確認され、科学的根拠に基づいた健康訴求の可能性を見出すなど、特産品の付加価値向上を目指した商品開発を行いました。鏡野町産の「ピオーネ」や「すうめ」のセミドライフルーツを活用した高級バターサンドをはじめ、グミやドレッシングなどを企画し、無添加・有機原料、グルテンフリーといった健康志向のターゲット層を意識した試作と磨き上げを進めました。

この他、専門家や地域関係者、学生が参加する協議会やワークショップを複数回開催し、産学官連携による合意形成と組織体制の整備を図りました。

また情報発信や販路開拓として、大阪・関西万博岡山催事への出展PRや、日本橋三越伊勢丹や千疋屋総本店、こだわりやなどの百貨店・専門店の商談やテスト販売を実施しました。これにより、「健康のまち鏡野町」のブランド価値向上を図ると共に、原材料のトレーサビリティや添加物排除といった市場の厳しい要件を把握し、商品改善に繋げました。

更には、IoTを活用したEコマースサイトのシステム設計や、情報発信とブランド確立に向けた基盤整備も進めました。

○今後の事業構想

これまでの開発・テストマーケティングから「販売・収益化フェーズ」へと移行します。

具体的には、無添加志向・高付加価値の商品戦略を軸に商品の最終ブラッシュアップを行い、百貨店の催事や店舗展開などへの販売実装を進めます。また、必要に応じてOEMや共同開発も活用し、生産体制の課題解決を図ります。「高級ラインで魅せて地域で展開する」というブランディング戦略のもと、商品を鏡野町の認知度を向上させるための発信ツールとして位置づけ、海外展開やインバウンド需要、富裕層向けツアーなども視野に入れたプロモーションを展開し、持続可能な地域ブランドの確立を目指します。

グレー欄は自動で入力されます

別添
(任意評価様式第4号)

参考資料（開発商品一覧）

一般社団法人鏡野観光局



山果実のバターサンド



すうめグミ



左：ドレッシング
中央：ドレッシング
右：焼肉のタレ

- ・山村活性化支援交付金事業実施評価書（別紙様式第10号）で報告した開発・改良商品の数と合致させてください。
- ・事業開始から令和7年度までの期間に開発（改良含む）が完了した商品の画像を添付してください。
- ・令和5～6年度に開発した商品には、過年度開発商品と記載して下さい。

別添
(任意評価様式第5号)

グレー欄は自動で入力されます
本様式に記事画像等を張り付けるか、PDF等の任意の形式でご提出ください

参考資料（取組の紹介記事等）

一般社団法人鏡野観光局

岡山県の北部に
おもれえ
まちがあります

岡山県
鏡野町

製作大学・鏡野観光局の連携

山恵みが、未来のブランドになる。
かがみのウェルネスはじまる。

製作大学・鏡野観光局の連携

鏡野町山村活性化事業における
食の開発と情報発信の取り組み

二つ二つ会議 2026

開催日時／2026年4月25日(土)10:00～10:00(最終入場17:30)
2026年4月26日(日)10:00～17:00(最終入場16:30)
会 場／新緑メッセ 国際展示場1～11ホール・イベントホール

旅くらし

別紙2
(任意評価様式第7号)

令和7年度	事業開始 2年目	岡山県苫田郡鏡野町	一般社団法人鏡野観光局
-------	-------------	-----------	-------------

商品開発等取組状況一覧

※ 事業開始年度から完了年度までの期間中に開発等を行う商品等の取組実績について、各年度毎に実施した取組をすべて選択してください。
※ 入力の評価年度分までです。これから事業を実施する年度分は入力不要です。

商品等名称	開発 区分	内容	取組実績					
			1年目（令和6年度）		2年目（令和7年度）		3年目（令和8年度）	
いちご	1. 新規	1. 加工食品	1. 資源量・利用状況等調査	7. 開発等完了				
			4. 商品のブランディング	7. 開発等完了				
			6. 商品のプロモーション	7. 開発等完了				
桃	1. 新規	1. 加工食品	1. 資源量・利用状況等調査	7. 開発等完了				
			4. 商品のブランディング	7. 開発等完了				
			6. 商品のプロモーション	7. 開発等完了				
ぶどう	1. 新規	1. 加工食品	1. 資源量・利用状況等調査	7. 開発等完了				
			4. 商品のブランディング	7. 開発等完了				
			6. 商品のプロモーション	7. 開発等完了				
バターサンド	1. 新規	1. 加工食品			2. 商品開発・改良	7. 開発等完了		
グミ	1. 新規	1. 加工食品			2. 商品開発・改良	4. 商品のブランディング		
焼肉のタレ	1. 新規	1. 加工食品			2. 商品開発・改良	7. 開発等完了		
ドレッシング	1. 新規	1. 加工食品			2. 商品開発・改良	7. 開発等完了		

農山漁村振興交付金（山村活性化対策） 重点指導結果

事業実施主体名：一般社団法人鏡野観光局

年 月 日作成

都道府県名 市町村名	事業採択 年度	取組概要
岡山県 鏡野町	令和7年度	「鏡野ウェルネス」を掲げ、鏡野町産のフルーツ（ぶどう や すうめ等）を活用した山村活性化事業を展開しました。成分分析に基づく健康志向の加工品開発や産学官連携の協議会を開催。各種イベントや百貨店での販売に向けたマーケティング、ECサイト設計等を実施し、特産品のブランド向上と基盤整備を進めました。

1. 第三者の意見及び、目標達成に向けた指導・助言等

鏡野町産の果実をバターサンド、ドレッシング、焼肉のタレ、グミ等の商品開発に応用することにより廃棄農産物の削減、新たな産業の創出、鏡野町の全国に向けたネームバリューの向上へ大きく貢献できる事業であると考えられる。また産官学一体となった計画的な取り組みについても高く評価できる。開発品について差別化を科学的に明確にしたうえで市場に遡及できるストーリーを構築することが必要と考える。

2. 低調と評価された内容・要因

今回の開発品は、果物から容易に発想できる商品なので、どのような差別化を謳うかがポイントであると考えます。しかしながら、目新しいものを狙うより、このようなオーソドックスなもので本当においしいものができれば最も理想的であると思われるので、今後の展開に期待したい。

3. 目標達成に向けた方策

特別感がある差別化製品に仕上げ、廃貨品ではなく、高級路線で売り出すことが望ましいと考える。そのためにはデパ地下や、高級スーパー（関東では成城石井、関西では紀伊国屋、ヤマダストアーなど）での販路ができるような製品に仕上げたい。そのための訴求点を明確にして科学的な根拠をもとにした開発ストーリーおよびキャッチーなネーミングの設定が重要になると考える。それらをもとにプロモーション展開を行うことで事業の成功を期待する。

4. 改善状況